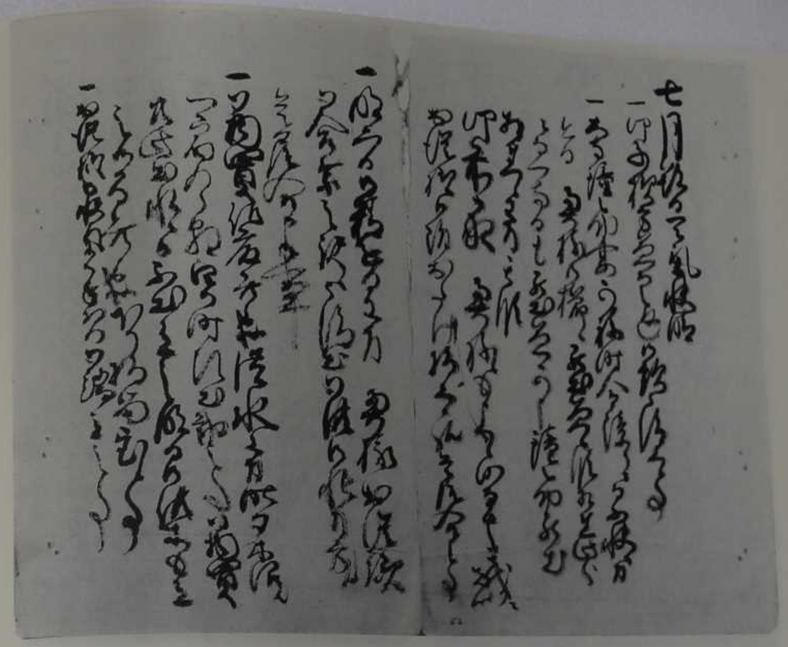


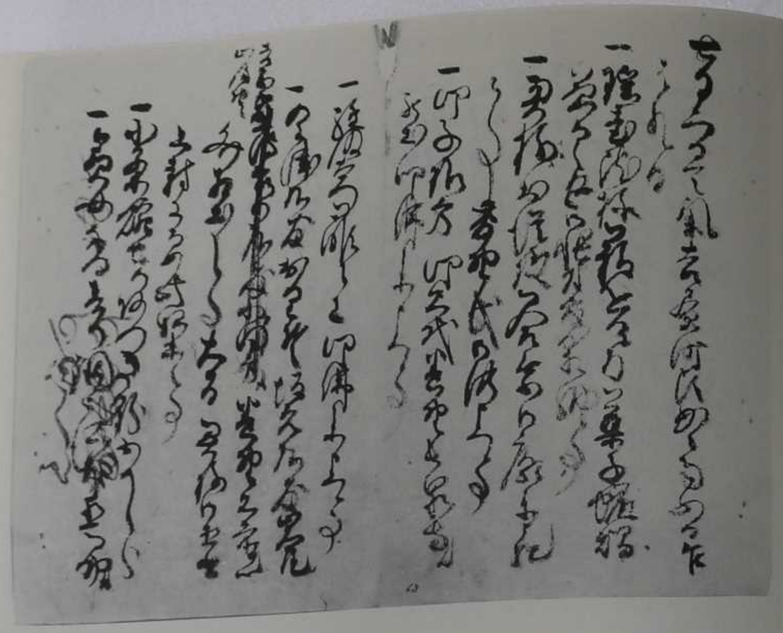
【翻刻】

七月朔日、天気快晴
一、御子様方兼而之通、御歓被仰上候事
一、大寺鐘之助妻かね、時令障り二而不快二付
今日　奥様御櫛江罷出兼候段相達、此分
二而一両日も罷出兼可申、鐘之助罷出
相達候に付、其段
御前御始　奥様江も申上候、仍而書其代り二先以
お従様御附おたけ、指上候様首尾合之事
一、明二日御精進日に付、奥様・お従様
御合乗之訳二被仰出、御供御帳付方江
首尾合申候事
一、御物買佐藤喜兵衛、洪水に付、昨夕木沼江
一宿、今朝四ッ時頃出勤之事、御物買
共、此出水二而不出有之、明日御供等も有
之候間、喜兵衛下り指留置候事
一、お従様御快気、御手習御端立之事

【読み下し】

七月一日、天気快晴
一、御子様方兼ての通り、御歓び仰せ上げられ候事
一、大寺鐘之助妻かね、時令障りにて不快に付
今日　奥様御櫛へ罷り出でかね候段相達し、この分
一両日も罷り出でかね申すべく、鐘之助罷り出で
相達候に付、その段
御前御始　奥様へも申し上げ候、よってはその代りに先ず以って
お従様御付おたけ、差し上げ候様首尾合の事
一、明二日御精進日に付、　奥様・お従様
御合乗りの訳に仰せ出でられ、御供御帳付方へ
首尾合申し候事
一、御物買佐藤喜兵衛、洪水に付、昨夕木沼へ
一宿、今朝四つ時頃出勤の事、御物買
共、この出水にて出でずこれ有り、明日御供等もこれ有り
候間、喜兵衛下り差し留め置き候事
一、お従様御快気、御手習い御端立の事

・時令障（じれいしょう）＝時節柄の不調。
・御櫛（おくし）＝髪を結う御役目。
・おたけ＝お従様お付奥女中。
・四ッ時＝午前十時頃。
・端立（はたつ）＝始める。



【翻刻】

七月二日、天気吉、昼時頃少々雨ふる、午
はれ日
一、瑤臺院様御精進日二付、御菓子・蝋燭
兼而之通御帳付方より相納候事
一、奥様・お従様御合乗、御廟参被遊
候事、菅野氏御供申上候事
一、御子様方　御名代巻野、長泉寺江
罷出、御佛参申上候事
一、縫殿右衛門御暇之上、御佛参申上候事
一、金津屋敷おりそ・坂元屋敷岩尾・
吉岡屋敷岸野、薄衣御屋敷小ノ田方江巻野名前を以
文相出申候事、右者　奥様御直書
上封に而如此始末之事
一、小茶碗七ッ、あつき粉五十文分
一、美女香壱ッ、調被仰付、求馬助江

【読み下し】

七月二日、天気吉、昼時頃少々雨ふる、晴れ日ながら
一、瑤臺院様御精進日に付、御菓子・蝋燭
兼ての通り御帳付方より相納め候事
一、奥様・お従様御合乗り、御廟参遊ばされ
候事、菅野氏御供申し上げ候事
一、御子様方　御名代巻野、長泉寺へ
罷り出で、御仏参申し上げ候事
一、縫殿右衛門御暇の上、御仏参申し上げ候事
一、金津屋敷おりそ・坂元屋敷岩尾・
吉岡屋敷岸野方へ巻野名前を以って
文相出し申し候事、右は　奥様御直書
上封にてかくの如く始末の事
一、小茶碗七つ、あずき粉五十文分
一、美女香一つ、調え仰せ付けられ、求馬助へ

・瑤臺院様（ようだいいんさま）＝十三代石川義光公後夫人。桃生郡小野領主富田壱岐源実保女、敬子。文化十年（一八一三）生、弘化三年（一八四六）正月二日没。享年三十三才。
・菅野氏＝菅野鉄之丞。奥御用人。南町、高三貫文。
・金津屋敷＝伊具郡尾山村、大條氏。伊達家着坐。
・おりそ＝金津屋敷老女。
・吉岡屋敷＝黒川郡吉岡、但木土佐。伊達家宿老。
・岸野＝吉岡屋敷老女。
・美女香＝化粧品の名称か。